令和６年度水稲生育状況の振り返り

令和６年１０月１８日
夷隅農業事務所改良普及課

ポ イ ン ト

移植後から成熟期までの全般にわたって高温が続いたため、茎数が多く、稈長も高く生育過剰気味でした。また、８月 16 日の台風の影響で倒伏が目立ちました。

倒伏したことに加え、出穂後の最低気温が高かったことから、白未熟粒米（シラタ）の発生も多く見られました。また、高温の影響で生育が早まり、平年どおりの刈取りでは刈遅れとなり、茶米の発生が見られました。

目標茎数を確保したら速やかに中干しを行い、茎数・穂数をコントロールし、出穂期からの日数や帯緑色籾歩合を確認しながら刈取り適期を見極めることが重要となります。

１　苗づくりから移植前後の生育（表１）

育苗期間となる４月は全般にわたって、気温が平年よりも高く推移した結果、苗の生育が進み、移植時の草丈は平年よりも高めに生育しました。

移植後となる４月下旬以降は、最高気温が 25℃を超える日もあったため、移植１か月後の茎数は平年よりも多くなりました。しかし、最低気温が 10℃を下回る日（５月第１半旬）もあったため、草丈は平年並みでした。

表１　夷隅地域での作柄調査ほにおける平年比生育状況（苗調査・移植約１か月後）

品種	調査場所	植付時期	測定値（平年比※）			
			苗調査		移植１か月後	
			草丈 (cm)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
ふさこがね	大多喜町下大多喜	4 月 29 日	23.5(高)	2.9(並)	27(並)	146(多)
コシヒカリ	いすみ市松丸	4 月 21 日	26.4(高)	2.1(並)	33(並)	302(並)
粒すけ	いすみ市島	4 月 16 日	14.9(低)	3.3(進)	33(並)	194(多)

※粒すけは調査５年目のため、過去４年分と比較した結果を示しました。

２　幼穂形成期頃の生育（表２）

５月から６月も気温が平年よりも高く、日照時間も長く推移した結果、幼穂形成期の茎数は平年よりも多くなりました。一方で、最低気温が平年を下回る日（６月第１、２半旬）もあったため草丈は低い傾向にありました。

植付けから幼穂形成期までの日数は平年よりも、「ふさこがね」で７日早く、「コシヒカリ」で１日遅く、「粒すけ」で１日早くなりました。

表２　夷隅地域での作柄調査ほにおける平年比生育状況（幼穂形成期）

品種	幼穂形成期 (平年値※)	植付～幼形期までの期間 (平年値※)	測定値（平年比※）		
			草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)
ふさこがね	6 月 16 日 (6 月 15 日)	48 日 (55 日)	44 (低)	619 (多)	41.2 (並)
コシヒカリ	6 月 21 日 (6 月 18 日)	61 日 (60 日)	68 (並)	611 (多)	33.7 (並)
粒すけ	6 月 17 日 (6 月 21 日)	62 日 (63 日)	57 (低)	480 (やや少)	39.9 (やや淡)

※粒すけは調査５年目のため、過去４年分と比較した結果を示しました。

３　出穂期頃の生育（表３）

６月下旬から７月にかけても気温が平年よりも高く推移した結果、幼穂形成期から出穂期までの日数は平年よりも短く、「ふさこがね」で５日、「コシヒカリ」で７日、「粒すけ」で２日早まりました。

「コシヒカリ」は稈長が 90 ㎝以上、穂数が 430 本／㎡（砂壌土～埴壌土）以上となると、倒伏しやすくなります。幼穂形成期頃となる６月下旬以降の最低気温は平年よりも高く、節間伸長が促進されたため、稈長は倒伏が懸念される 90 ㎝を上回り 96 ㎝となりました。また、穂数も 466 本／㎡と平年よりも多く、倒伏が懸念される 430 本／㎡を超えました。

表３　夷隅地域での作柄調査ほにおける平年比生育状況（出穂期頃）

品種	出穂期（平年値※）	幼形期～出穂期までの期間（平年値※）	測定値（平年比※）				
			葉色（SPAD）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	有効茎歩合（%）
ふさこがね	７月８日（７月 11 日）	21 日（26 日）	42.9（並）	74（やや低）	19.9（並）	453（多）	73.1（低）
コシヒカリ	７月 10 日（７月 14 日）	19 日（26 日）	35.5（並）	96（並）	18.7（並）	466（多）	76.3（並）
粒すけ	７月８日（７月 16 日）	22 日（24 日）	43.1（やや濃）	88（並）	20.4（並）	410（並）	85.5（高）

※粒すけは調査５年目のため、過去４年分と比較した結果を示しました。

４　成熟期頃の生育（表４）、収量・収量構成要素（表５）

幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなった結果、成熟期は「ふさこがね」で平年よりも４日、「コシヒカリ」で５日、「粒すけ」で７日早くなりました。７月から８月も気温が平年よりも高く推移しましたが、出穂期から成熟期までの期間は平年並みでした。

稈長が長く、穂数・㎡あたり籾数が多かったことに加え、７月 30 日の局地的大雨の影響で「コシヒカリ」の倒伏程度は 3.0 でした（図１）。５月移植の場合は８月 16 日に襲来した台風８号による風雨の影響で、倒伏が見られました。

出穂期以降は日照時間が長く、気温も高く、適度な降雨もあったため、精玄米重は平年並みで、屑米は少ない傾向でした。

出穂期以降の最低気温が高く推移したことや、倒伏したため、白未熟粒米（シラタ）が多発しました。また、成熟期が早まったことにより刈遅れとなり、茶米の発生も見られました。

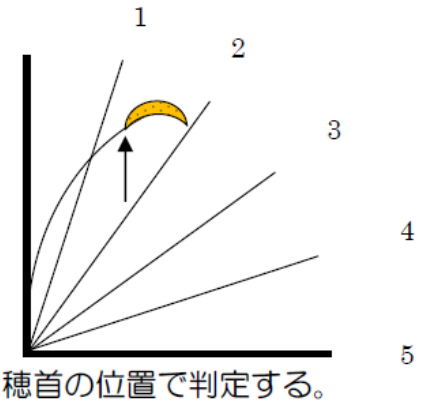

図１　倒伏程度の判定方法

表４　夷隅地域での作柄調査ほにおける平年比生育状況（成熟期頃）

品種	成熟期（平年値※）	出穂期～成熟期までの期間（平年値）	測定値（平年比※）					
			倒伏程度（平年値）	全重（kg/10a）	わら重（kg/10a）	籾重（kg/10a）	精玄米重（kg/10a）	屑米重（kg/10a）
ふさこがね	８月 12 日（８月 16 日）	36 日（36 日）	1.0（0.8）	1623（並）	751（並）	872（並）	635（並）	20（やや多）
コシヒカリ	８月 15 日（８月 20 日）	36 日（37 日）	3.0（2.5）	1689（やや多）	892（多）	797（並）	600（やや少）	25（少）
粒すけ	８月 15 日（８月 22 日）	37 日（38 日）	1.0（0.8）	1795（多）	928（多）	867（やや多）	635（並）	20（少）

※粒すけは調査５年目のため、過去４年分と比較した結果を示しました。

表５　夷隅地域での作柄調査ほにおける平年比生育状況（収量構成要素調査）

品種	測定値（平年比※）【目標値】					
	㎡当たり穂数(本/㎡)	１穂籾数（粒）	㎡当たり籾数（x100 粒/㎡）	登熟歩合（%）	不稔歩合（%）	玄米千粒重（ｇ）
ふさこがね	453 （多） 【380】	73.0 （少） 【80】	330 （並） 【304】	77.4 （やや少） 【85】	11.2 （多） 【 - 】	22.9 （並） 【23.5】
コシヒカリ	466 （多） 【400】	72.6 （やや少） 【80】	339 （やや多） 【320】	85.1 （並） 【80】	5.3 （少） 【 - 】	21.6 （並） 【21.0】
粒すけ	410 （並） 【400】	86.0 （やや多） 【77.5】	354 （多） 【310】	84.6 （並） 【85】	6.1 （並） 【 - 】	23.8 （並） 【23.0】

※粒すけは調査５年目のため、過去４年分と比較した結果を示しました。

５　来年に向けての対策

（１）茶米（褐色米）について

「茶米」は、通常は問題とならない雑菌（カビ）が関係し、刈遅れによる老化や、干ばつにより登熟期に根が切れる等、稲体に外的ストレスが生じた際に発生が多くなります。

対策としては、①帯緑色籾歩合を確認し（図１）、適期（帯緑色籾歩合 15%）に刈り取りを行う、②出穂後の早期落水を避け、稲の活力維持を図る等が挙げられます。近年は成熟期が早まっていますので、適期に刈り取りましょう。

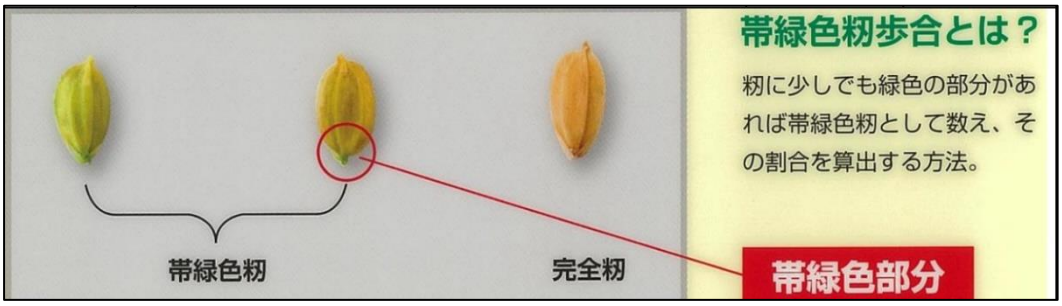

図２　帯緑色籾歩合の確認の仕方

（２）斑点米カメムシについて

今年は、大型斑点米カメムシ類のすくい取り調査での平均捕獲虫数が 8.2 頭と過去 10 年間で最も多く、斑点米が多くなりました。対策として、出穂期の一斉防除だけで防除しきれなかった場合は、出穂後２週間程度の乳熟期頃に追加防除をします。また、カメムシの畦畔からほ場内への移動を防ぐため、畦畔除草は出穂期２週間前までに完了させましょう。

（３）中干しについて

今年、「ふさこがね」、「コシヒカリ」では、㎡当たり穂数が過剰になりました。

中干しは過剰分げつを抑制するための重要な管理です。中干しの適期実施により茎数・穂数を制限することができます。坪 50 株植えでは、「ふさこがね」で 24 本/株、「コシヒカリ」で 20 本/株、「粒すけ」で 29 本/株程度になったら中干しを開始しましょう。

（４）秋耕・冬耕について

秋耕を行うことで、稲わらの腐熟促進、メタンガスの排出量削減、移植後のガス害対策等の効果があり、翌年の収量や品質の向上が期待されます。早めに秋耕しましょう。

ジャンボタニシ対策として、冬耕により①物理的に貝を破壊する効果、②土から出して寒さにあて凍死させる効果があります。トラクタの設定は回転速度 PTO２、時速 1.4km 以下で殺貝効果が上がります。詳細は別紙を参照ください。

6　今年の気象図

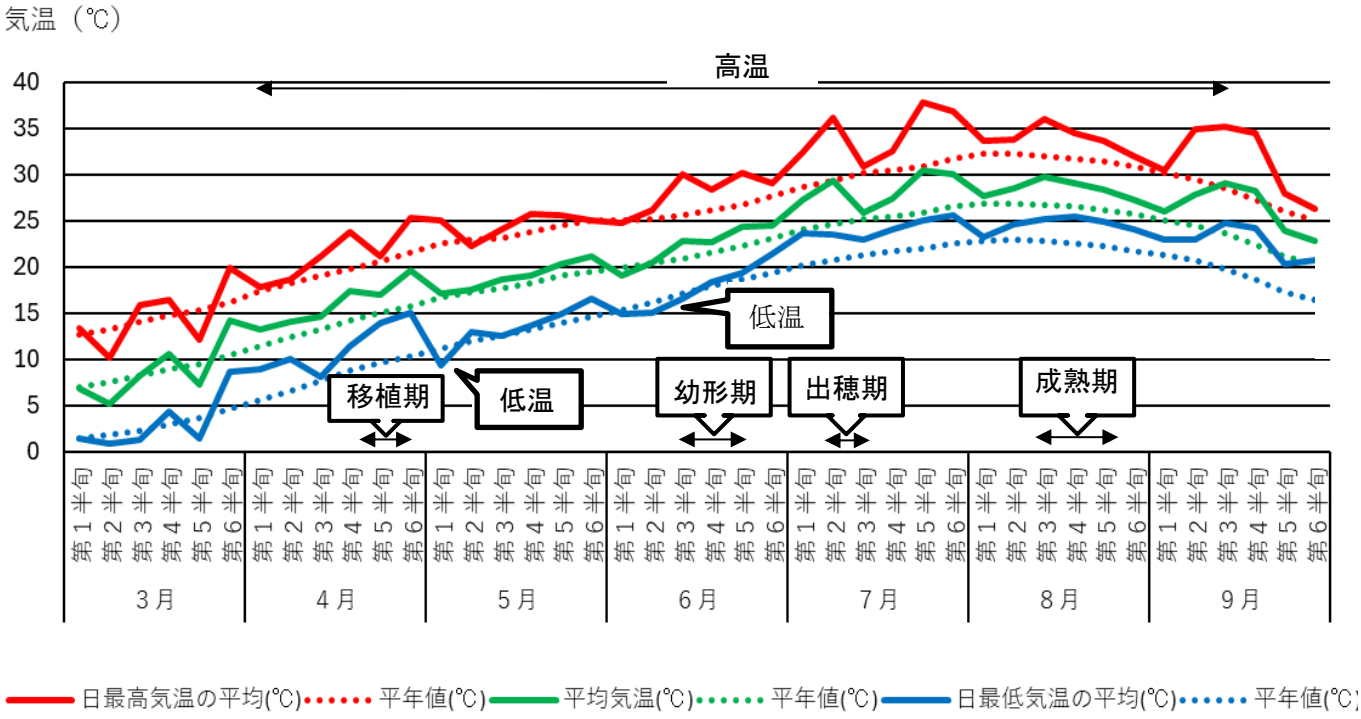

図３　半旬ごとの気温の推移（アメダス牛久）

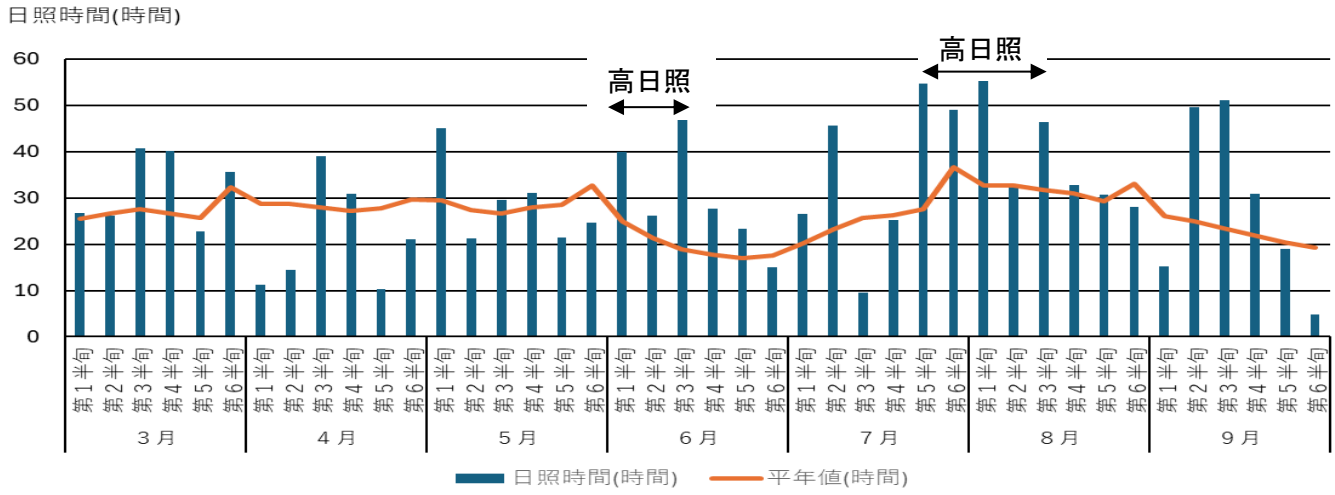

図４　半旬ごとの日照時間の推移（アメダス牛久）

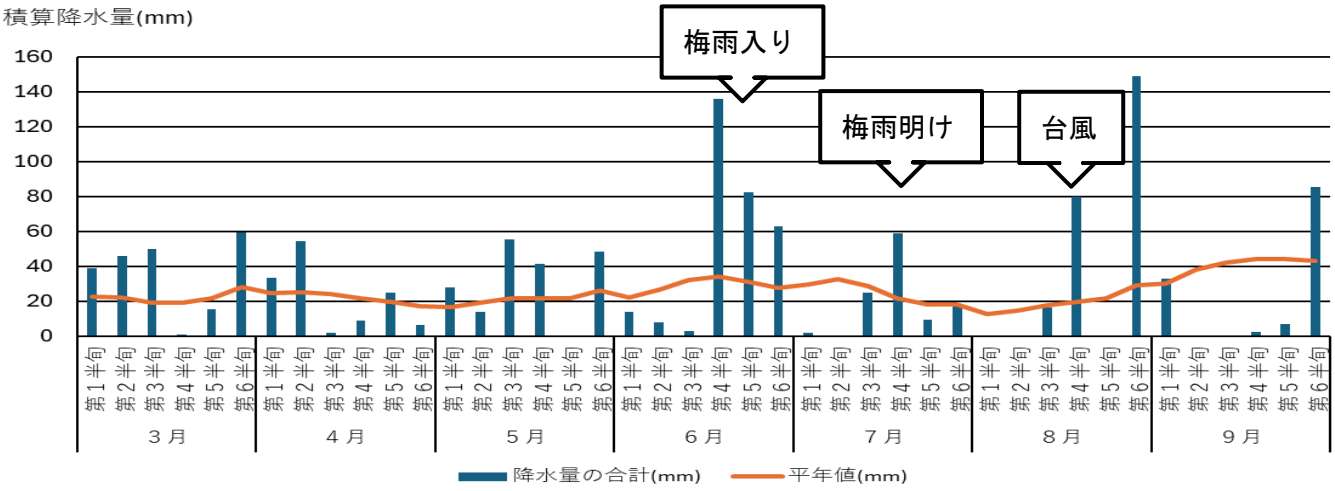

図５　半旬ごとの積算降水量の推移（アメダス牛久）